

本資料の内容について、無断で改変した上での再頒布・公開はご遠慮ください。

関連事項	キーワード	聖地巡礼、コンテンツツーリズム、アニメ、映画、観光、地域振興、産業振興、図書館
	映画公開	2016年（平成28年）8月26日。飛騨地域に映画館がないことも話題に。

	質問	回答
調査研究 対応について	職員に聞き取り調査をしたい	開館時間中のみ対応できます。次のフォームから1カ月前までにお申し込みください。対応できない場合もありますのでご了承ください。
	館内の案内をしてほしい	公共図書館に関する調査研究・視察以外での案内は行っておりません。開館時間中は自由に見ていただくことができます。
	館内の写真撮影がしたい	開館時間中、17時まで撮影可能です。サービスカウンターへ申し出が必要です。
	館内の写真がほしい	公式SNSですでに公開されているものや、飛騨市画像オープンデータにあるものを利用規約に沿ってご利用ください。 https://openphoto.app/c/hidacity
	市内の観光・観光客について調べたい	図書館以外のことについては、飛騨市まちづくり観光課へお問い合わせください。（Tel0577-73-7463）
聖地巡礼者・観光客について	来館者の変化はあったか	統計から比較できる。2015年度⇒2016年度 104,456人⇒134,077人 約3万人増 詳細な人数や月別統計などは別途お問い合わせください。
	観光客は増えたか	観光客のみの統計は取っていない。 撮影許可人数の統計（2016.9～2018.1）は別途お問い合わせください。 コロナ流行で一時0になったが、公開から現在まで継続して聖地巡礼の来館者があることが、コーナー設置の書き込みノートからわかる。
	新型コロナ流行の影響は	2020年2月頃から。観光客減⇒0人⇒2021年夏ごろから増加傾向、2023年にはほぼ元通り（GW、夏休み期間に増加）
	写真撮影を可能にした背景は	映画公開以前から可能であった。
	貼り紙で写真撮影を許可するようになった経緯は	撮影者が増えたため、図書館利用者に迷惑にならないよう周知した。外国人が増えたため多言語対応した。
	観光客は館内でどのように過ごすか	観光パンフレットを見る、ソファに座って休む、コーナーを見るなど
	観光客の増加に伴い迷惑行為などはあったか	ごみを置いて行かれる方が増えたが、もともと観光地であり、聖地巡礼者に限ったことではないため不明。
	どれだけ効果が続くか予想されるか	当初は映画公開年程度と思っていたが、長く続いていることに驚いている。今後の予想は出来ない。
	聖地巡礼者を受け入れたことによる、メリット・デメリットは	メリット：来館者の増加。メディアに取り上げられたことで市民の認知度の上昇。利用カードの作成者の増加。図書館職員のホスピタリティ意識の向上。他館、図書館関係者からの認知度の上昇 デメリット：来館者の増加による市民からの苦情（マナーの問題(話し声、シャッター音)、団体での来館に子どもが怖がる)
	来館者数の増加の反面、観光として館内をただ見学するという目的意識の乖離が生じていると思われるが、どう考えるか	見学のみでも問題はないと考えており、地元とは違う図書館に来館していただくことで図書館という場を知り、全国の図書館利用に繋がると考えている。また、観光案内もレファレンスの一つととらえている。
図書館の取り組み	図書館で取り組んだことは	・（撮影許可は以前から行っていた）許可を取れば撮影可能な案内をあらためて出した ・市民向けに「映画で聖地巡礼が増えている」と案内を出した ・特設コーナーの設置（市作成の映画ポスターやリーフレット配置、関連資料（書籍・雑誌）排架、「どこからきたの？」コメントカードの設置と掲示→のちに変更（カード⇒ノート⇒白地図）。 ・「#飛騨市図書館きたよ」しおりの製作、配布 ・市美術館原画展の半券持参で特製しおりプレゼント ・関連の新聞記事見出し一覧の作成※地方版（飛騨版）への記事掲載が多数のため ・取材対応（テレビ、新聞、雑誌等） ・調査研究（学生の論文が主）の対応 ※配給会社の権利上、公に企画・広報はしていない。観光・コンテンツツーリズムについては市の担当課が総括

質問	回答
エントランスに設置した案内板全文①観光客向け	①聖地巡礼者の皆様へ ご来館いただきありがとうございます。飛騨古川へようこそ。飛騨市がモデルとなっている新海誠監督の新作映画『君の名は。』には、当館にそっくりな図書館も登場します。館内で写真撮影をされる際は、事前にカウンターにて許可申請を行ってください。また、他の利用者様の顔が識別できるように写真を撮ることはご遠慮ください。この他にも、市民の方のご利用の妨げにならないよう、充分ご配慮ください。SNSに写真を投稿する際は、「飛騨市図書館きたよ」と是非とも記載してください。「飛騨図書館」「飛騨市立図書館」などの誤りにお気をつけください。ちなみに飛騨市図書館はツイッターとフェイスブックをやっていますのでフォローしてください。ご協力いただきありがとうございます。飛騨市図書館
エントランスに設置した案内板全文②図書館利用者向け	②図書館をご利用の方へ 映画「君の名は。」で当館によく似た場面が出てくるため、多数の観光客の方をお迎えしています。観光客の方が館内で写真を撮ることがありますが、図書館では他の来館者の顔が映りこまないようご配慮をお願いしたうえで撮影を許可しています。また、取材などで話し声が聞こえる場合もございます。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力いただきますようお願い申し上げます。館内の「君の名は。」特設コーナーには、日本全国、また海外からも飛騨市にやってきた方々のコメントがあります。ぜひご覧ください。
コーナー展示を企画した意図は	・市製作の巡礼マップやリーフレットをわかりやすくまとめて置く場所として ・「どこから来たか」を書いてもらうカードを置き、様々な地域から来ていただいていることを知りたかった、市民にも知ってもらいたかった ・自由に記入できるノートを置き、巡礼者の交流・記念になるものを作りたい
Twitter（当時）、Facebookでアカウントを開設した経緯は	どちらも映画公開前から開設している。図書館の広報活動のため。（Facebook:2013年、Twitter:2016年4月）
SNSをどのように活用しているか、どのような意図があるか	イベント、休館日、お知らせなど情報発信の場として活用。他の図書館との交流や情報収集、観光客向けの情報発信の意図もある。
地域住民への具体的な対応はあるか	17時以降撮影禁止にすることで夜間利用に対する配慮（コーナー付近の席での学習利用が多い時間帯のため）
コーナー展示にあたって工夫した点や苦労した点は	図書館利用者が優先であるため、聖地巡礼者の写真撮影が利用者の妨げにならないよう工夫した。 ・撮影許可証を渡す際に、図書館利用者が写らないように等注意点を口頭で伝える、多言語の案内板の作成 ・撮影は午後5時までに制限する（夕方以降は学習利用の学生が増えるため） ・長期休暇等来館者が増加する時期に、館内掲示やSNSでの定期的な呼びかけ
「飛騨市図書館きたよ」というハッシュタグを作成した意図は	当初に掲示した注意書きからとっている
聖地巡礼者向けの対応が可能となった背景は	聖地巡礼者の来館を受けて、職員が自発的に行ったことで素早い対応ができたと考えられる。（館長に許可をとることなく司書が掲示物を作った。普段から職員の自発的取り組みを推奨している）また、比較的若い職員が多く、巡礼者に対する理解も早かった。
映画公開以前にコンテンツツーリズムの経験はあったか	過去にコンテンツツーリズムの経験はない。
コーナーの撤収予定は	現状は撤収の予定はない。来館者の推移を見て決める。特設コーナーは2015年度末に縮小し郷土資料架へ移動→現在も継続中
作品に関する資料の扱いは、地域資料か一般資料か	地域資料として扱っている。
今後の具体的な取り組みなどは予定しているか	映画に関する取り組みは、製作者の意向がない限りこちらの独断で企画することはない。観光客の方々に対してはよろこんでお迎えしたいと思っているが、施設の目的上、市民へのサービスが最優先である。 公共図書館のニーズやサービスが多様になっていくなかで、作中で描かれた主人公の図書館の使い方はその原点であり、図書館職員として嬉しく思った。書物などのかたちで残されたこの土地のあらゆる記録が、大切な記憶として再び見つけられるためのために情報の収集・保存・提供に努めたい。
聖地として今後もアピールを続けていくか	観光客の方々に対してはよろこんでお迎えしたいと思っているが、施設の目的上、市民へのサービスが最優先である。

	質問	回答
連携について	市との連携は図っているか	観光課と連携をとり、情報共有をしている。多国語の撮影案内作成を依頼、課制作の観光マップを図書館で配布している。
	協力関係にある団体・企業は	特にない。
	関係者との関わりについて知りたい①映画の制作者②聖地巡礼者③地域住民	①制作時に協力依頼はない（映画の公開まで図書館スタッフ・市役所には知らされていなかった）。公開後も、図書館と製作者が直接連携して行った企画はない。 ②聖地巡礼者は市や図書館が「聖地巡礼」をおおる前に来はじめた。彼らの様子を見て、歓迎の意を込めマナー掲示を出した。飛騨への「聖地巡礼」ブームを作ったのは、ファンの方々の作品への熱意であって、我々ができたことはほとんどなかったと感じている。 ③（市や民間）「飛騨市美術館」原画展。その半券を持って図書館に来館すると特製しおりをプレゼント 「さくら物産館」パネル展（図書館連携なし） 「飛騨市文化交流センター」市民を対象（優先）に上映会（飛騨地域に映画館がなかったため）（図書館連携なし）
観光について	観光客はどのような情報を求めて来館していると思われるか	観光情報・周辺地図・パンフレットの収集、聖地巡礼など （図書館駐車場が市営駐車場を兼ねており、観光バスなども停まるため、道案内をすることが多い）
	観光に対する施策としてどのような取り組みを行っているか	市が推進する事業に関する特集展示やコーナー設置、観光パンフレットの設置、市営施設の案内表示など
	観光に関する知識を持っている職員はいるか	一般的な観光案内以上の知識を有する者はいない。市観光課を案内したり、観光案内所を紹介する。
	飛騨古川の観光地と図書館をどのように結び付けているか	市営図書館のため、特定の観光施設と連携することはほとんどない。市の他部署や市有施設と連携して市民向けの展示を行うことが、観光客の目に留まることもある。
	観光情報の発信のためにどのような取り組みを行っているか	特に観光情報の発信には力を入れていないが、エントランスに観光案内リーフレットの設置や、周辺の観光案内を行っている。
	観光客を図書館に呼び込むためにどのような取り組みを行っているか	あくまでも図書館利用者優先のため、観光客を積極的に呼び込むことはしていない。
	観光資料（パンフレット、マップなど）をどの程度収集しているか	市（観光課）で発行・保有するもの、例祭のポスターなど
	レファレンスサービスとして飛騨の観光に関するものはあるか、その内容は	道案内程度のものが多い。また、学生の研究等で観光や聖地巡礼についての調査依頼が来ることがある。
	飛騨を訪れるインバウンド客にどのような対応をしているか	多言語の案内表示（主に写真撮影について）